

公共事業再評価調書

整理番号 H17 - 32

担当部課名	県土整備部 港湾空港課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 7 6
		E - MAIL	kowan @ags.pref.aomori.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 (年)	再評価後 (5 年)	その他 ()
---------	-----	------------	--------------	---------

1 事業概要

事業種別	港湾事業		事業主体	県 市町村 その他 ()				
事業名	八戸港港湾環境整備事業 緑地(第2ふ頭)		地区名等	河原木地区	市町村名	八戸市		
事業方法	国庫補助	県単独	財源・負担区分	国 50 % 33.3	県 50 % 66.7	市町村 % その他 %		
採択年度	平成 3 年度 (用地着手 平成 年度 / 工事着手 平成 4 年度)							
終了予定年度	平成 22 年度 (平成 16 年 3 月 工期変更 当初計画時 平成 17 年度)							
事業目的	八戸港は工業地帯に特化してきているが、港湾利用者や一般市民が日常的に利用でき、海へのふれあいの場となる場所が少ないため、憩える快適な親水空間の創出により港湾環境の改善を図る。							
主要内容	区 分	再評価時	再々評価時	増 減				
	通路工	4,200 m ²	4,200 m ²	0 m ²				
	芝生・植樹工	25,100 m ²	25,100 m ²	0 m ²				
	休憩所、ベンチ工	26 基	26 基	0 基				
	トイレ工	1 棟	1 棟	0 棟				
	広場工	4,000 m ²	4,000 m ²	0 m ²				
	駐車場工	3,200 m ²	3,200 m ²	0 m ²				
災害時の避難緑地の機能向上を図るため、自然エネルギー活用型発電施設の追加により、事業費340百万円の増となっている。								
事業費	再評価時総事業費		3,130 百万円		(単位 : 百万円)			
		~ 14年度	15年度	16年度	17年度	小 計	18年度~	合 計
	計 画	()	()	()	()	2,602	868	3,470
	(うち用地費)	()	()	()	()	(0)	(0)	(0)
年 月変更								
実 績	2,702	24	10	10	2,746	724	3,470	
(うち用地費)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	(うち用地費)		79.1 % [/]	105.5 % [/]
			(%) [/]	(%) [/]
	主要工種	緑地 (3,470百万円)	79.1 %	105.5 %
毎割合	(百万円)	%	%	
(事業費)	(百万円)	%	%	
説 明	八戸港港湾環境整備事業の緑地(第2ふ頭)については、平成3年度に事業着手し、既に外周の緑地護岸及び埋立が完了している。また、一部の水際線についても転落防止柵及び遊歩道が整備されている。計画全体に対する進捗率は79.1%となり、引き続き緑地の整備(通路・広場・駐車場・芝生・植樹・トイレ等)を順次行う予定で、平成22年度の完成が見込まれている。			
問題点・解決見込み	障害要因はなく、着実に整備を進めることができる。			
事業効果発現状況	フェンスや遊歩道の整備により、一部水際の環境改善が図られている。			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>[全国の評価]</p> <p>八戸市は人口約25万人を擁する主要な産業都市であり、特に八戸港は重要港湾に指定されており、平成8年のFAZの指定、平成9年の国際交流インフラ推進事業の選定、平成15年には総合静脈物流拠点となる等、物資流通及び産業経済の拠点としての役割は一層高まるものと期待される。</p>	<p>[県内の評価]</p> <p>県内の主要港湾である八戸港は、物資物流及び産業経済の拠点としての役割は一層高まるものと期待されると同時に、臨海部での憩い安らぎ空間、親水空間が求められ、更なる良好な港湾環境の形成が期待される。</p>	
	当地区における評価	<p>物流機能や生産機能を中心とした工業地帯と特化している地域であり、産業の向上と同時に、豊かさや潤いを求める市民ニーズが高まる中で、「みなとのまちづくり」という視点による良好な港湾環境の形成が期待される。</p>		
必要性	<p>八戸港の港湾計画に位置付けられ妥当性・適合性を市及びその他に広い範囲で了承されており、青森県が管理者となっている重要港湾で県が整備すべき事業である。</p> <p>災害時においては避難地等のオープンスペースとして利用できる緑地であるため、近年多発する災害に対し対応できる場所を確保する必要がある。また、八戸港が工業地帯に特化し、緑地整備率が低い状況から、環境の向上に対する市民の意識・要望は高まりつつあり、景観に配慮し、親水性を備えた緑地等への環境改善等が望まれている。</p>			(a) ・ b
適時性	<p>災害時においては避難地等のオープンスペースとして利用できる緑地であり、近年多発する災害に対し早期に避難場所を確保するため、適時性が高い。</p>			(a) ・ b
地元の推進体制等	<p>周辺市町村から県、国等への要望があり、地元の推進体制が整っている。また、港湾関係者等との調整が順調に推移しており、地元住民による反対運動等がない。</p>			(a) ・ b
効率性	<p>八戸港における緑地率の向上が図られ、利用形態の改善、地域住民・周辺就労者の憩いの場として環境改善された場所が提供できる。また、災害時には避難地等のオープンスペースとして使用できることにより、被災者の安心感が生まれる。</p>			

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増減
費用項目 (C)	(1)建設費、維持管理費	3,725 百万円	4,936 百万円	1,211 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	3,725 百万円	4,936 百万円	1,211 百万円
便益項目 (B)	(1)交流・レク機会増加便益、残存価値	4,344 百万円	8,719 百万円	4,375 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	4,344 百万円	8,719 百万円	4,375 百万円
B / C		1.17	1.77	
<p>【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等)</p> <p>港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(平成16年6月 国土交通省港湾局)による。</p> <p>【費用対効果分析における特記事項】</p> <p>避難緑地として整備されることにより、災害時において、被災者の安心感が生まれる。B / C上昇の要因については、前回は、当時の「費用対効果分析マニュアル」により緑地面積から想定される利用者数及びマニュアル掲載の便益によりB / Cを算定したのに対し、今回、最新の「費用対効果分析マニュアル」に基づき算定した結果、利用者数・訪問回数が増加したことにより、便益が上昇した。</p>				

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A)・B・C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 再生材の使用、土砂搬出量の抑制、経済比較による使用製品の決定等、コストの縮減が十分図られている。	(a)・b
代替案	【代替案の検討状況】 物流機能や生産機能を中心とした工業地帯の中で、緑地率の向上、港湾施設・その他の周辺施設との一体性や、産業の向上と共に環境の改善等を図る必要があるため、代替となるものがなく、妥当であると考ええる。	(a)・b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A)・B・C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 港湾事業に対するヒアリングや各種会議等を実施し、住民の意見・要望等を把握している。	【住民ニーズ・意見】 主な意見は・要望は次のとおり。 ・八戸港には緑地が少ないので、緑地を整備して欲しい。 ・景観や環境に配慮して整備して欲しい。	(a)・b
環境影響への配慮	【地域別環境配慮指針への対応】 地域区分 H5f (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)対応内容 親水性を考慮しながら、近年注目されつつある「みなとのまちづくり」に相応しい景観となるよう配慮する。八戸港が築き上げた歴史的な自然環境に配慮する。	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)対応内容 ・騒音、振動、土ぼこりの発生防止、廃油流出防止等、周辺環境等に配慮する。 ・搬出土砂量の抑制、生態系への配慮、交通渋滞・交通公害の発生防止、土壌汚染対策等に努める。	(a)・b
地域の立地特性	物流機能や生産機能を中心とした工業地帯として発展してきたため、緑地の整備率が低い。また、八戸港のほぼ中心に位置し、八太郎大橋、八戸大橋及び八戸市の高台等から望める場所であるため、八戸市民から、景観の向上が望まれている地域である。		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続 計画変更 中止 休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	第2ふ頭は災害時に避難地等のオープンスペースとして利用できる緑地であるため、近年多発してきている災害に早期に対応するためにも整備が必要不可欠であり、急務である。更には、八戸港が工業地帯に特化してきたことによる親水・やすらぎ空間等の緑地不足の解消を早急に図り、港湾環境の向上、市民・港湾就労者等のニーズに応える必要があるため、継続して事業を進めることが適当である。
備考	

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	継続 計画変更 中止 休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見	
評価理由	